

令和4年度 地方公共団体における効果的な熱中症予防対策の推進に係るモデル事業

大阪府吹田市

～高齢者へ気づきを与える優しいひとと言と温度計～

令和5年2月8日
成果報告会

【吹田市】 1. 地域の特徴や課題

(1) 地域の特徴

- 大阪府の北部に位置し、東西6.3km、南北9.6km、面積は36.09km²
- 南部は標高10mほどの低地であり、北部は標高110m程度の地形。
- 明け方の気温分布では、北部は南部に比べ1℃程度低い結果。

(2) 熱中症による救急搬送者数の状況

吹田市における熱中症による救急搬送者数推移

年度	年齢区分				傷病程度				搬送件数
	6歳以下	7-17歳	18-64歳	65歳以上	死亡	重症	中等症	軽症	
2022	2	24	64	87	0	0	33	144	177
2021	1	8	36	49	0	1	18	75	94
2020	0	23	54	72	0	0	43	106	149
2019	2	29	57	61	0	1	33	115	149

10万人当たりの熱中症搬送者数

年齢区分	6歳以下	7-17歳	18-64歳	65歳以上
全国(参考)	9	67.4	34.2	102.8
吹田市	6.7	59.6	24.0	71.9

【吹田市】 1. 地域の特徴や課題

(3)地域の課題

熱中症対策における課題

- 市全域が市街化され、人工廃熱や人工被覆面の増加、水面・緑地の減少により、
熱帯夜数が32日（令和3年度5年移動平均値）に及ぶ。
- 日最高暑さ指数（WBGT）30以上の年間日数、吹田市の熱中症救急搬送者数は、近年増加傾向。
- 過去の調査から、高齢者、スポーツをする生徒・学生及び万博記念公園の運動施設の熱中症発症リスクが高いことがわかった。

【吹田市】 2. 熱中症対策における連携体制

(1) 平時における庁内外の連携体制

【吹田市庁内体制】

副市長がトップで全部長が委員となり、環境施策の総合的な調整を図る「**環境施策調整推進会議**」において、暑熱環境の情報を共有するとともに、各施策の状況を報告し、評価して、施策を推進している。

また、その結果を学識経験者等の外部の専門家等で構成される「**吹田市環境審議会**」へ報告し、審議・評価を受け、次年度以降の施策へ反映し、効果的かつ効率的な取組の発展を図っている。

さらに、必要に応じて庁内の関係者と協議するとともに、外部の有識者や専門家等にアドバイスをいただき、効果的な暑熱環境対策を実施している。

(主な庁内関係者)

環境政策室、文化スポーツ推進室、
教育委員会、高齢福祉室、消防本部 他

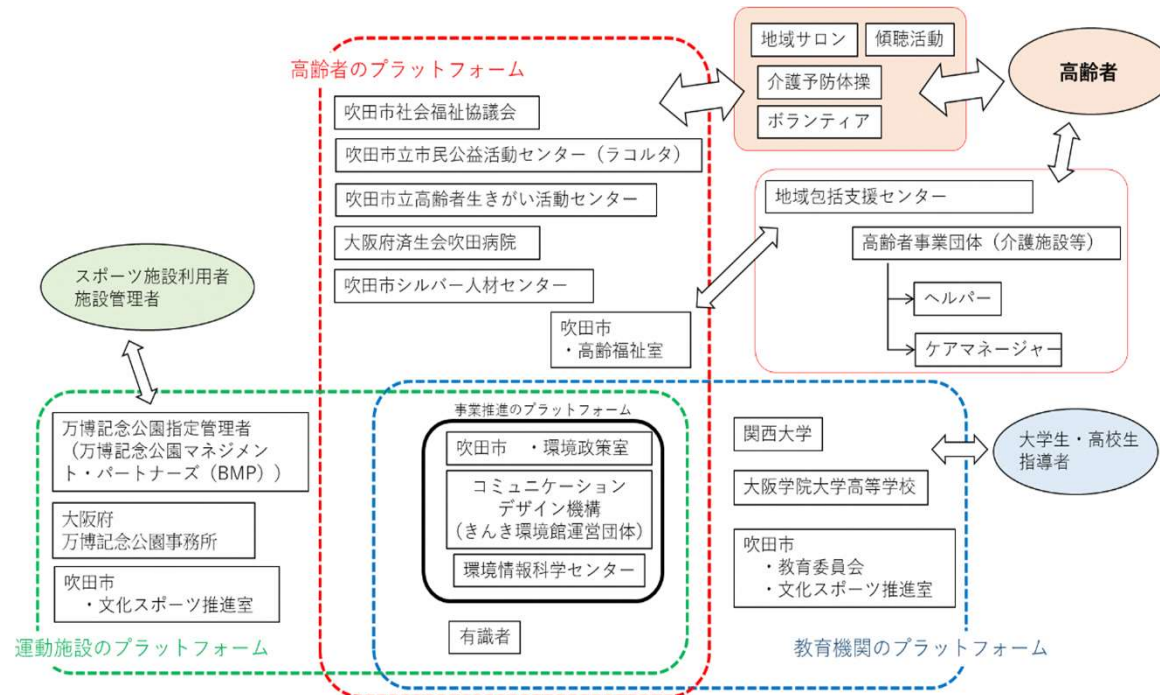
【吹田市】 2. 熱中症対策における連携体制

(1) 平時における庁内外の連携体制

【熱中症予防のためのプラットフォーム会議】

吹田市では令和3年度のモデル事業において、熱中症リスクの高い【高齢者】【教育機関】【運動施設】におけるリスク低減の取組を、それぞれの関係主体において連携して実施するため、**各関係者のプラットフォームの体制**を構築。

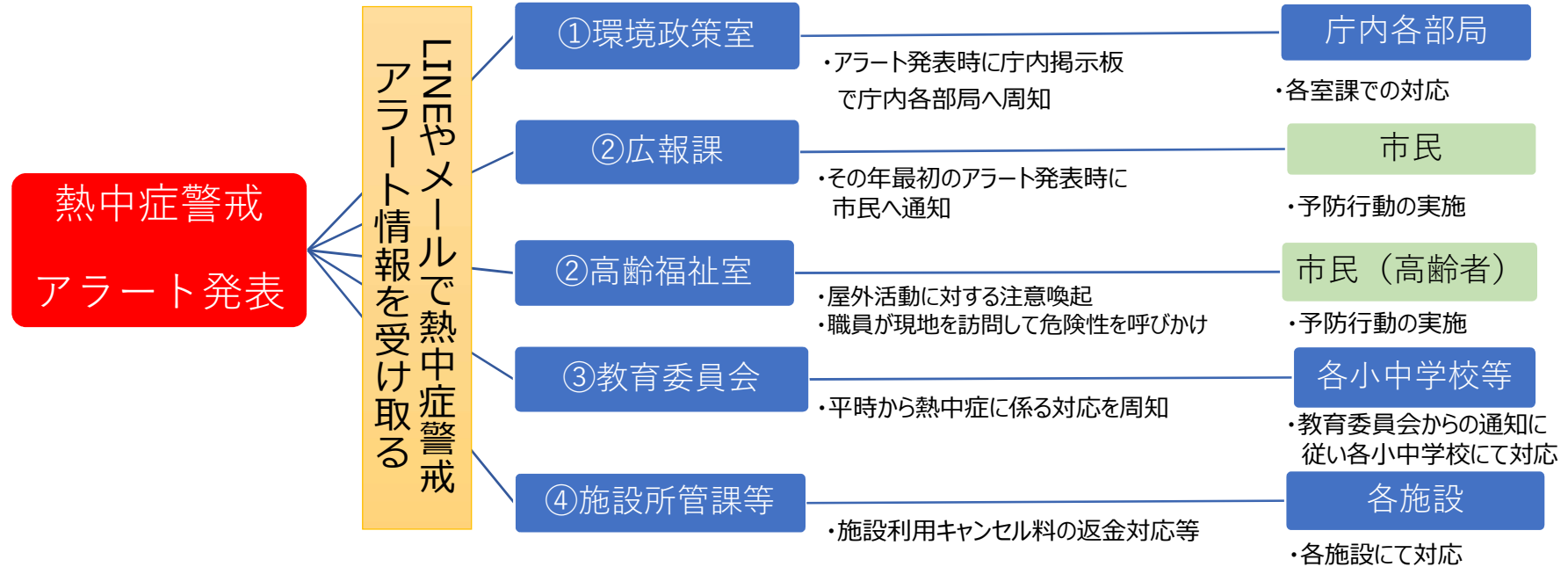
事業実施者を事務局として、協力団体と情報共有及び意見交換をしている。
また、必要に応じて他の団体への参画を呼び掛け、連携体制の充実を図っている。



プラットフォーム会議の連携体制イメージ図

【吹田市】 2. 熱中症対策における連携体制

(2) 熱中症警戒アラート発表時における連携体制・対応策



番号	部局名	対応
①	環境政策室	○アラートが発表された際には、庁内電子掲示板「事務なび」にて職員へ周知及び市民へはSNSを活用し、注意喚起及びアラートの登録を呼びかけ
②	各室課	○関係する市民へ通知 例) 広報課：その年最初のアラート発表時に市SNSへ掲載、市SNSでアラート登録の呼びかけを実施。 例) 高齢福祉室：屋外で実施する体操教室において、アラートのレベルに応じ、体操時間の短縮、または中止を推奨。また、職員が現地に訪問し、アラート登録や熱中症の危険性を市民へ呼びかけ。
③	教育委員会	○各小中学校にて教育委員会の通知に従い、それぞれ対応
④	施設所管課等	○各施設にて熱中症の呼びかけや対応等を実施 例) 各スポーツ施設にて、アラート発表日に熱中症対策（予防）を理由にキャンセルをした場合は、キャンセル料が掛からない措置を7月から9月まで実施

【吹田市】 3. モデル事業の取組概要

事業名：高齢者へ気づきを与える優しいひとと言と温度計

共同実施者	役割
一般社団法人コミュニケーションデザイン機構	モデル事業全体に係る事務局業務並びに熱中症リスクの高い関係主体に対する取組及びプラットフォームの運営
一般社団法人環境情報科学センター	主として、熱中症リスク評価の取組（熱中症搬送者データ分析。市内小学校・万博記念公園等での気温等調査実施。高齢者アンケート調査分析。）

取組概要

吹田市においては熱中症の観点から、高齢者の自分事化に課題があり、本モデル事業をもって自分事化を目的とした以下取組を実施。

- リスク評価1：市内各所における気温等調査
- リスク評価2：市内各所における熱中症搬送者調査
- リスク評価3：日最高暑さ指数（WBGT）別熱中症搬送者調査
- 取組1-①： 温湿度計を活用した“気づき”による行動促進
- 取組1-②： 高齢者支援団体の声かけによる行動促進
- 取組2： プラットフォームの運営・とりまとめ

本事業における指標（KPI）の設定

リスク評価	リスク分析結果を用いた資料（マップ等）の作成
取組1①	温湿度計利用による効果のより正確な測定のため、協力いただいた高齢者のアンケートを90%以上回収
取組1②	啓発効果や改善点把握のため、3団体に対するグループインタビューの実施
取組2	モデルケースとして、運営・経験を元にしたプラットフォームづくりのポイント等を取りまとめた資料案の作成

【吹田市】 4. リスク評価

リスク評価

市内各所における気温等調査

- 市内各所における気温等調査を実施し、**熱中症リスクの高い場所や時間帯を把握。**
(市内の代表地点2か所でWBGTの測定及び市内36か所で温度の測定。)

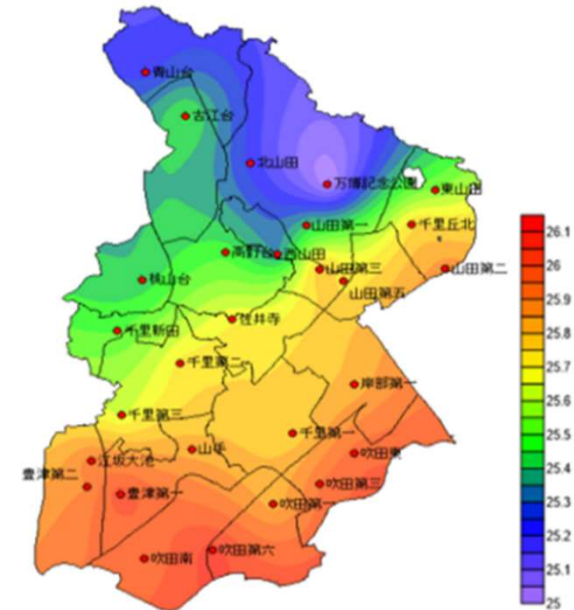
結果



WBGT計（北消防署屋上）



温度計（万博公園）



解析データ（一例）
2022年7月26日（5時）のWBGT分布

【吹田市】 4. リスク評価

リスク評価

市内各所における熱中症搬送者調査

- 市内の熱中症搬送者データ分析を実施し、**中等症・重症者の多い場所を把握。**

結果

<データ分析結果>

- ・市内の中等症・重症搬送者は9年間で223人、うち75歳以上は124人だった。(図1)
- ・年代別の人口1万人当たりの中等症・重症者数(年)は75歳以上が他の年代の10倍を超えていた。(図2,5)
- ・中学校区ごとの違いは見られるが、市域の北側と南側での差は見られておらず、吹田市全域で中等症・重症者が発生していた。(図4)

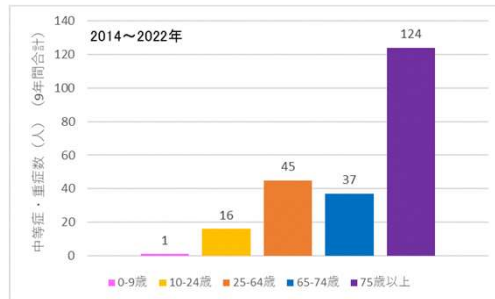


図1 中等症・重症者の発生数 (年代別)

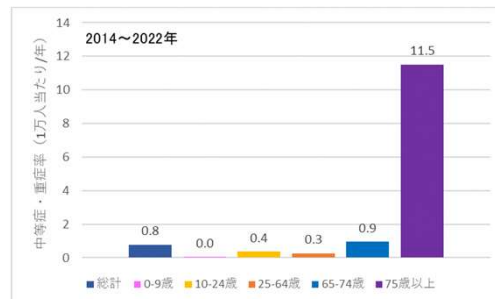


図2 1万人当たりの中等症・重症者の発生数 (年代別・年)



図3 75歳以上人口 (人)



図4 75歳以上中等症・重症搬送者数 (人)

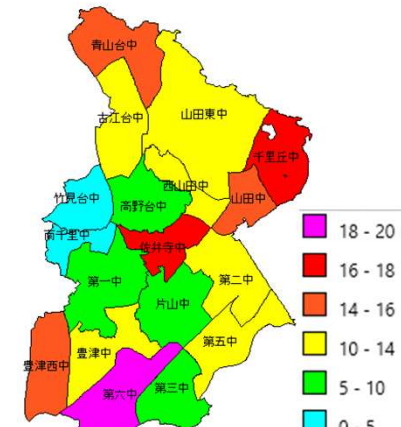


図5 75歳以上中等症・重症搬送者数 (1万人あたり/年)

※2014から2022年の9年間のデータを使用
 ※凡例の数値はすべて以上未滿

【吹田市】 4. リスク評価

リスク評価

日最高暑さ指数（WBGT）別熱中症搬送者調査

- 令和4年度熱中症救急搬送データを加えて日最高暑さ指数（WBGT）別の搬送者数を過年度と比較する。
※吹田市では、中期的な目標として「令和10年度までに熱中症救急搬送者数を令和2年度（5年移動平均）比で3割削減する」としているため、経年的に把握していく必要がある。

結果

＜令和4年度の熱中症救急搬送者数推移（5年移動平均値）※令和2年度比＞

- 暑さ指数（WBGT）30：約20%増加
- 暑さ指数（WBGT）31：増減なし
- 暑さ指数（WBGT）32：約11%増加

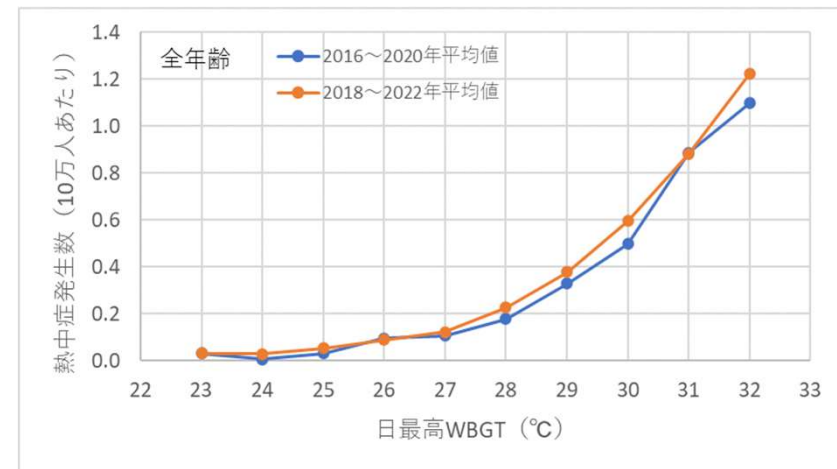
＜効果の指標（KPI）＞

○設定指標

リスク分析結果を用いた資料（マップ等）の作成

○設定指標に対する結果

スライド9のとおり**リスク分析結果を用いた資料を作成した。**
今後、作成したマップ等を**住民への注意喚起やクールスポット・給水スポット情報との連携等にも使用する**方法を検討する。



【吹田市】 4. リスク評価（まとめ）

リスク評価

結果（まとめ）

- 市内各所における気温等調査
 - ・吹田市における最も暑い日の暑熱環境分布は、万博記念公園を除き、**日中は地域差が見られず、明け方に市域北側で南側より気温にして1℃程度低い**ことがわかった。（昨年度と同様の結果）
 - ・25℃未満時間数でも同様の結果が見られ、市域北側は南側に比べ25℃未満時間数が多い、すなわち熱帯夜になる時間数が少なく比較的過ごしやすかった。
- 市内各所における熱中症搬送者調査
 - ・2014年から2022年までの中等症・重症熱中症搬送者と人口データを用いて各地域の1万人あたりの75歳以上の中等症・重症熱中症搬送者数を示したところ、**地域ごとに違いは見られず、吹田市全域で中等症・重症者が発生**していた。

【吹田市】 5. 取組内容と結果

取組 1 ①：温湿度計を活用した“気づき”による行動促進

- 令和3年度モデル事業で行ったアンケートにおいて、約80%の高齢者が「自ら暑く感じたときにエアコンをつける」と回答していたが、温度に対する感覚が衰えた高齢者の定性的な判断によって熱中症へつながってしまう恐れがある。そこで、協力者65名を寝室に温湿度計を設置するグループと設置しないグループの2グループに分け、7/25～8/8の2週間にわたって就寝時と起床時にアンケートに回答してもらうアンケート調査を実施。この調査により、寝室に温湿度計を設置している場合、温湿度計を設置していない場合と比べて**夜間における適切なエアコンの活用につながるか**の効果を検証。

【実施方法】

- ・最初の7日間は全員に温湿度計がない状態で過ごしてもらう。
- ・8日目から温湿度計がない状態を継続するグループAと、温湿度計を配布して寝室に設置してもらうグループBの2グループに分けて調査を実施。



株式会社ドリテックHPより

結果

<効果の指標 (KPI)>

○設定指標

温湿度計利用による効果のより正確な測定のため、協力いただいた高齢者への**アンケートを90%以上回収**

○設定指標に対する結果

協力者65名のうち**64名分のアンケートを回収 (98.5%)**

【吹田市】 5. 取組内容と結果

取組 1 ①：温湿度計を活用した“気づき”による行動促進（つづき／結果その1）

結果

グループ別の対象者内訳

年齢層	温湿度計なし (A)	温湿度計あり (B)
60-64歳	0	1
65-69歳	9	8
70-74歳	10	8
75-79歳	7	8
80-84歳	4	6
85歳-	0	2
不明	1	0
合計	31	33

		温湿度計なし (A)	温湿度計あり (B)	総計
性別	女	15	20	35
	男	16	13	29
合計		31	33	64

アンケート内容

就寝時調査（1日目） 記入日時：7月25日（月）（ ）時（ ）分

※寝室でふとんに入る直前にご記入ください。

① 現在、寝室で利用している暑さ対策に○を付けてください。（複数選択可）

1.エアコン 2.扇風機 3.窓開け 4.その他() 5.何もしない

切タイマー設定 切タイマー設定

1.なし 2.あり()時間 1.なし 2.あり()時間

② 現在の寝室の環境をあなたはどのように感じますか？（ひとつだけに○をつけてください）

● 1 2 3 4 5 6 7

暑い やや暑い 暖かい どちらとも言えない 涼しい やや寒い 寒い

起床時調査（1日目） 記入日時：7月26日（火）（ ）時（ ）分

※ふとんから出たらできるだけ速やかにご記入ください。

① 昨夜、寝ているとき、途中で目覚めましたか？ 1. はい 2. いいえ

② 前の質問で「1. はい」と回答された場合、その理由とその回数をお答えください。

目覚めた理由とその回数 1.暑かったから()回 2.寒かったから()回
3.トイレに起きたから()回
4.その他(理由:) ()回

③ 昨夜、寝ていたときの環境をあなたはどのように感じましたか？（ひとつだけに○）

● 1 2 3 4 5 6 7

暑い やや暑い 暖かい どちらとも言えない 涼しい やや寒い 寒い

④ 昨夜、寝室で利用した暑さ対策の利用時間を○で囲んでください。（複数選択可）

エアコン	利用していない	2時間未満	3~4時間	5~6時間	7時間以上
扇風機などの送風機	利用していない	2時間未満	3~4時間	5~6時間	7時間以上
窓開け等による外気導入	利用していない	2時間未満	3~4時間	5~6時間	7時間以上
その他()	利用していない	2時間未満	3~4時間	5~6時間	7時間以上

就寝時調査（8日目） 記入日時：8月1日（月）（ ）時（ ）分

※寝室でふとんに入る直前にご記入ください。

① 寝室の温度計を確認して、温度と湿度を記入ください。

温度 ()℃ 湿度 ()%

② 温度計を確認して何か暑さ対策を追加しましたか。

1. 追加した 2. 追加していない

※追加した暑さ対策の例: エアコンの設定温度を下げて・風量を上げた、扇風機の風量を上げた、エアコンと扇風機を両方つけた等

③ 現在、寝室で利用している暑さ対策に○を付けてください。（複数選択可）

1.エアコン 2.扇風機 3.窓開け 4.その他() 5.何もしない

切タイマー設定 切タイマー設定

1.なし 2.あり()時間 1.なし 2.あり()時間

④ 現在の寝室の環境をあなたはどのように感じますか？（ひとつだけに○）

● 1 2 3 4 5 6 7

暑い やや暑い 暖かい どちらとも言えない 涼しい やや寒い 寒い

起床時調査（8日目） 記入日時：8月2日（火）（ ）時（ ）分

※ふとんから出たらできるだけ速やかにご記入ください。

① 寝室の温度計を確認して、温度と湿度を記入ください。

温度 ()℃ 湿度 ()%

② 昨夜、寝ているとき、途中で目覚めましたか？ 1. はい 2. いいえ

③ 前の質問で「1. はい」と回答された場合、その理由とその回数をお答えください。

目覚めた理由とその回数 1.暑かったから()回 2.寒かったから()回
3.トイレに起きたから()回
4.その他(理由:) ()回

④ 昨夜、寝ていたときの環境をあなたはどのように感じましたか？（ひとつだけに○）

● 1 2 3 4 5 6 7

暑い やや暑い 暖かい どちらとも言えない 涼しい やや寒い 寒い

⑤ 昨夜、寝室で利用した暑さ対策の時間を○で囲んでください。（複数選択可）

エアコン	利用していない	2時間未満	3~4時間	5~6時間	7時間以上
扇風機などの送風機	利用していない	2時間未満	3~4時間	5~6時間	7時間以上
窓開け等による外気導入	利用していない	2時間未満	3~4時間	5~6時間	7時間以上
その他()	利用していない	2時間未満	3~4時間	5~6時間	7時間以上

Aグループの全期間及び
Bグループの1～7日目

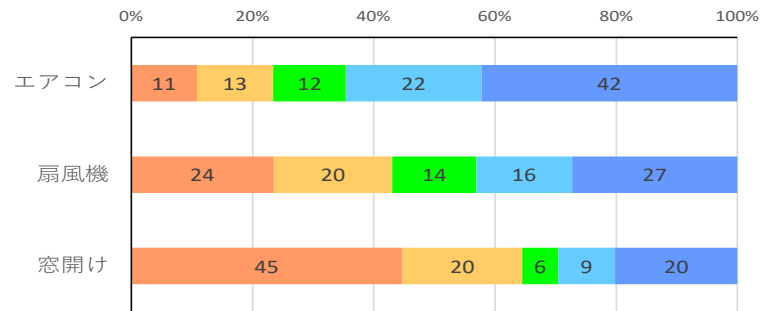
Bグループの8日目以降

【吹田市】 5. 取組内容と結果

取組1 ①：温湿度計を活用した“気づき”による行動促進（つづき／結果その2）

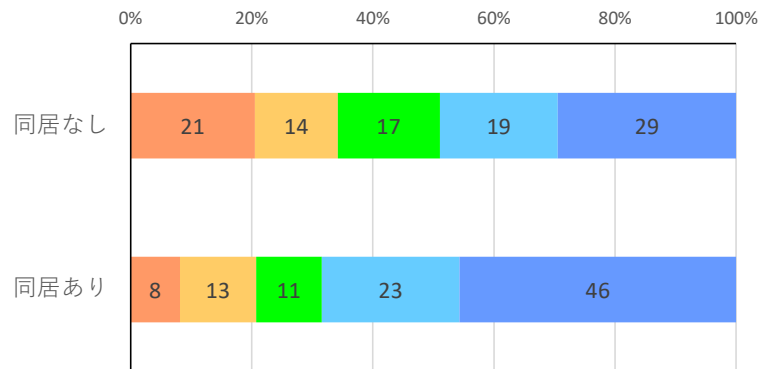
結果

- ・4割以上の方が睡眠中に7時間以上エアコンを利用していた。一方、**1割の方はエアコンを利用していなかった**（図6）。
- ・**住居の築年数や、居住年数が長いほど、エアコンの利用時間が少なくなる傾向**が見られた（図7）。
- ・**同居なしの方のエアコン利用時間が短い傾向**があり、そのうち約2割の方がエアコンを利用していなかった（図8）。
- ・睡眠時に途中で起きてしまった最も多い理由は「トイレ」だが、**暑くて起きてしまう方も14%**いた（図9）。



■ 利用しない ■ 2時間未満 ■ 3~4時間 ■ 5~6時間 ■ 7時間以上

図6 睡眠中の実際の暑さ対策の利用時間



■ 利用しない ■ 2時間未満 ■ 3~4時間 ■ 5~6時間 ■ 7時間以上

図8 同居者の有無によるエアコン利用状況の違い



		調査対象者の居住年数		
		10年未満	10年以上 30年未満	30年以上
住居の 築年数	10年未満	6.5時間	—	5.5時間
	10年以上 30年未満	4.4時間	5.3時間	—
	30年以上	5.5時間	4.8時間	4.2時間

図7 居住年数・築年数と睡眠時のエアコンの平均利用時間

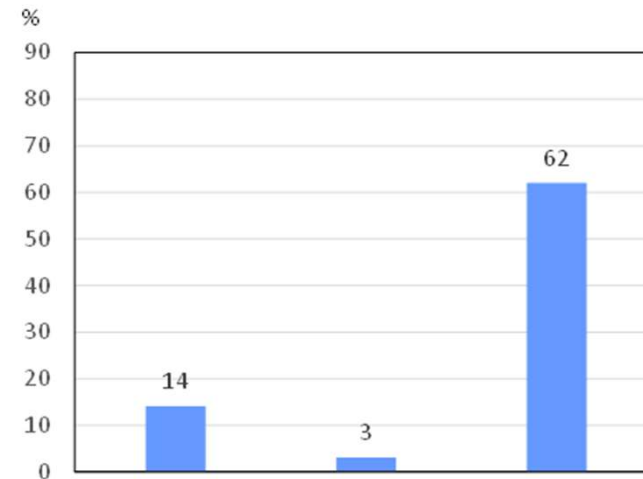


図9 途中で起きてしまった理由と割合（複数回答可）

【吹田市】 5. 取組内容と結果

取組 1 ①：温湿度計を活用した“気づき”による行動促進（つづき／結果その3）

結果

- ・第2週に温湿度計を配布し、設置したグループBでは**温湿度計設置後にエアコン利用時間が長くなる傾向**（図10）。
- ・**温湿度計を設置したグループBの方が、熱中症予防に対する意識も具体的な暑さ対策行動も高まった**（図11）。

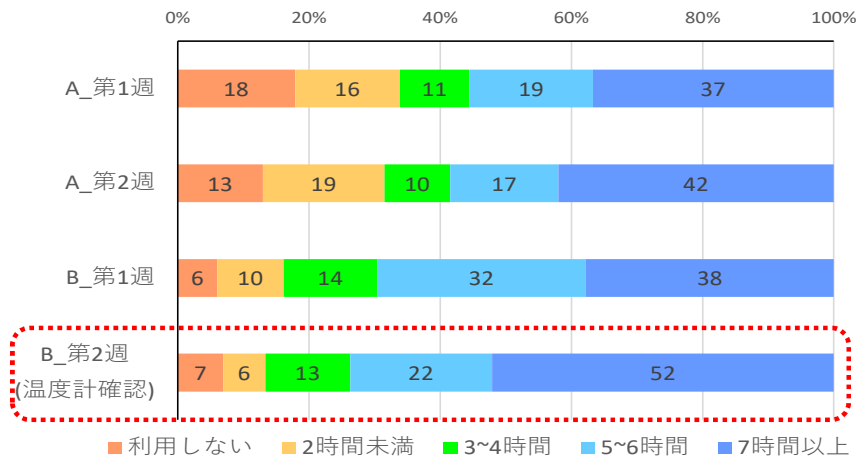


図10 グループ別、調査期間別の暑さ対策の利用時間

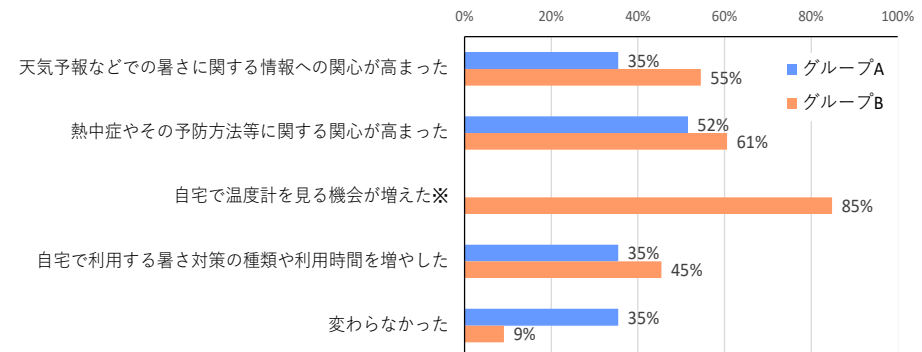


図11 調査終了後の意識変容等
※上から3つ目はグループBのみを対象とした質問項目

【取組 1 ①まとめ】

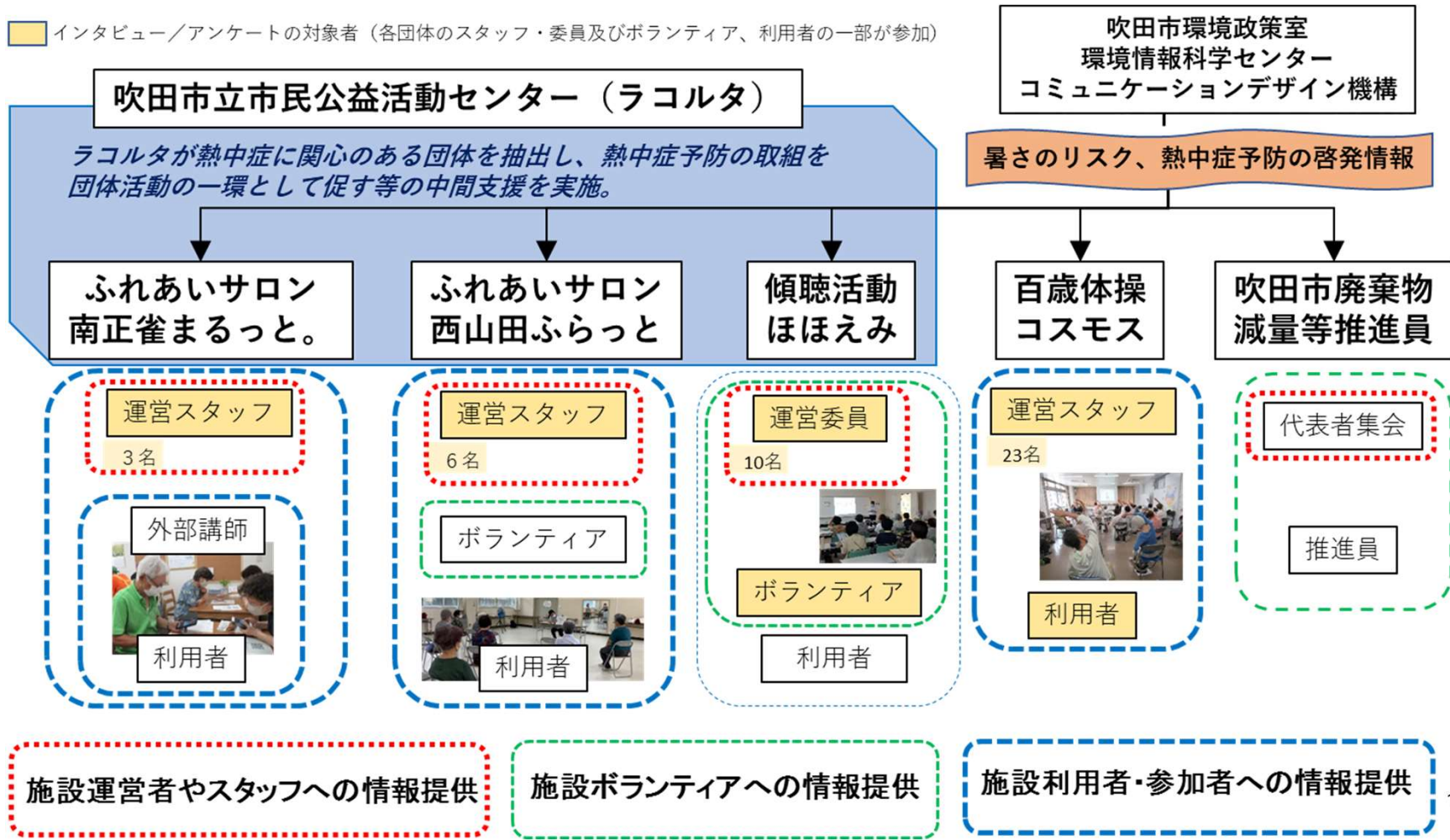
- ・限られた人数で調査を実施したが、個人の感覚による主観的な暑さではなく、**温湿度計により暑さ情報（温度及び湿度）を客観的な数値で確認することにより、高齢者の睡眠時のエアコン利用などの暑さ対策が促されることが分かった。**
- ・この結果については、今後、他地域でも検証されることが望まれるが、高齢者の睡眠時の暑さ対策の推進施策の一つとして横展開できるものとする。

【吹田市】 5. 取組内容と結果

取組1 ②：高齢者支援団体の声かけによる行動促進

● 令和3年度モデル事業のプラットフォーム会議での意見交換において、高齢者が熱中症リスクを理解し、リスク低減の行動を加速するためには、個々の暮らしに寄り添った周囲からの適切な声かけが必要であることが示されたことから、高齢者支援団体の運営スタッフ、ボランティア、団体活動の利用者等に対して声かけ等による熱中症予防行動の促進をおこなった。

■ インタビュー／アンケートの対象者（各団体のスタッフ・委員及びボランティア、利用者の一部が参加）



【吹田市】 5. 取組内容と結果

取組 1 ②：高齢者支援団体の声かけによる行動促進（つづき／結果その1）

結果

<効果の指標（KPI）>

○設定指標

啓発効果や改善点把握のため、活動による高齢者の反応・啓発効果と改善点について、協力いただいた団体のうち **3 団体に対してグループインタビュー**を実施する。

○設定指標に対する結果

傾聴活動・ふれあいサロン活動・介護予防活動を実施する **4 団体に対するグループインタビュー**を9月に実施

表 インタビュー及びアンケートを実施した4団体と実施日時・場所

団体（アンケート回答者数）	インタビュー／アンケートの実施日時及び場所
吹田傾聴ほほえみ（10名）	2022年9月21日（水）11時～12時 吹田市立市民公益活動センター（ラコルタ）
西山田ふらっと（6名）	2022年9月22日（木）15時～16時 山田コミュニティスペース
コスモス（百歳体操（23名）	2022年9月28日（水）11時～12時 南吹田公民館
南正雀まるっと。（3名）	2022年9月28日（水）14時～15時 南正雀まるっと。

【吹田市】 5. 取組内容と結果

取組 1 ②：高齢者支援団体の声かけによる行動促進（つづき／結果その2）

結果

団体	声かけ活動の実施状況
ふれあいサロン (南正雀 まるっと。)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な声かけ活動（様子を見て体調などを気づかう声かけ） ・来店時に、まず水を提供し、添えるお菓자에塩ラムネを加えた。スポーツドリンクをメニューに加えた。 ・ポスターを掲示し、チラシを配布した。 ・熱中症講習会を実施した。 ・スマホ相談会で暑さや熱中症予防に関わる素材を活用した。
ふれあいサロン (西山田 ふらっと)	<ul style="list-style-type: none"> ・来客の方に、かならず冷たい水を提供する ・月1度の訪問。声かけ安否確認 ・ウォーキングの時など、雑談に追加で色々話をした。
傾聴活動 ほほえみ	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間にラインとメールで「気を付けましょうね」と送りました。 ・クーラーの使い方や熱中症はどのような症状になるか経験者などと話し合った。 ・散歩中出会った人（軽度の認知症）に「水持っている？」などの声かけ
百歳体操 コスモス	<ul style="list-style-type: none"> ・お話を聞いて、1時間にコップ1杯の冷茶を飲むことを心がけた。 ・電話して安否の確認をした ・お友達に声をかけた

団体	実施した割合	対象人数
ふれあいサロン（南正雀）	100.0%	3
ふれあいサロン（西山田）	83.3%	6
傾聴活動	80.0%	10
百歳体操	43.5%	23
全体	61.9%	42

表 声かけ活動の実施状況（アンケート結果）

・スタッフの意識が変わり、お客さんの様子をこれまでより気にするようになった。
 ・話のネタになり、お客さんに話かけるきっかけができた。
 ・会うたびに声かけした結果、「今日は飲んできたで」という回答が出てきた。

・おかげで夏バテもなく、食事も3回きっちり取れ、元気に過ごせた。
 ・家の中でちゃんと水分もとって生活している有様がわかって安心した
 ・グループ活動でお互いに声かけをし、意識が高まった

表 インタビューで見られた取組及び効果への言及

【吹田市】 5. 取組内容と結果

取組1 ②：高齢者支援団体の声かけによる行動促進（つづき／結果その3）

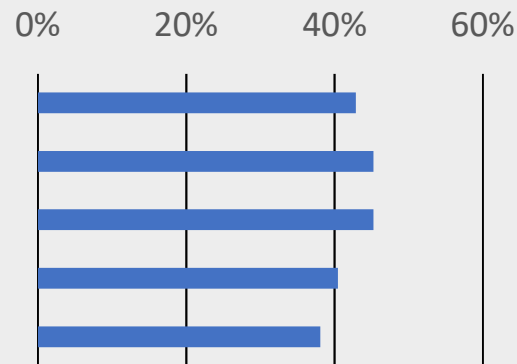
結果

★ アンケート項目「本事業がきっかけとなり、熱中症予防行動を実施したか」の問いかけに、約2割の方が本事業をきっかけに新たに実施するようになったと回答。

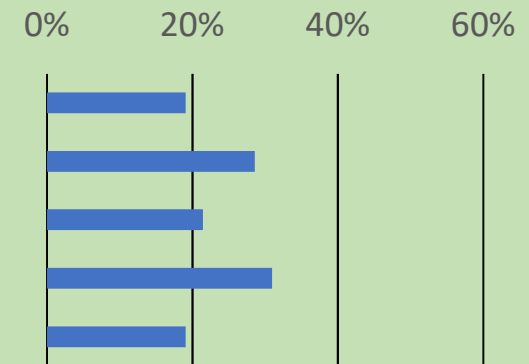
問. あなたご自身の熱中症予防の行動について教えてください。
(N=42)

- ① 急な暑さには用心して体調管理する
- ② こまめに水分を補給する
- ③ 涼しい服装をこころがける
- ④ 暑いときにはエアコンを積極的に利用する
- ⑤ 体感ではなく温度計で部屋の暑さを確認する

今年の声かけ活動とは関係なく、
いつも実施していた



今年の声かけ活動を
きっかけに実施するようになった



【取組1 ②まとめ】

- ・地域で高齢者に関わる活動をおこなっている団体の協力を得て、**団体の取組と連携することにより、高齢者の意識啓発や行動変容を促すことができた。**
- ・団体による本来の活動を第一とし、啓発活動への主体的な参画に留意することが、この取組をスムーズに進める上で重要だと考えられた。

【吹田市】 5. 取組内容と結果

取組2：プラットフォームの運営・とりまとめ

- 令和3年度に構築したハイリスク群である「**高齢者**」「**教育機関**」「**運動施設**」の関係主体による3つのプラットフォームでの繋がりを継続する。
- 熱中症予防を効率的・効果的に創出するための新しい方策として、**プラットフォームづくりのポイント**をとりまとめる。
- ・以下のとおり、夏前に市内の暑さのリスクと本年度事業計画について情報共有し、意見交換を行った。
 - 5月17日 運動施設プラットフォーム会議関係者との情報共有
 - 6月3日 高齢者プラットフォーム会議実施
 - 6月29日 教育機関プラットフォーム会議実施
- ・10月6日に高齢者のプラットフォーム会議を実施し、今夏の取組の情報共有・意見交換を行った。

結果

<効果の指標（KPI）>

○設定指標

モデルケースとして、運営・経験を元にしたプラットフォームづくりのポイント等を取りまとめた資料案の作成

○設定指標に対する結果

資料「**熱中症予防のためのプラットフォーム運営のポイント**」を作成した。
今後、作成した資料をよりブラッシュアップし、他地域の参考として公開することを検討する。

【吹田市】 5. 取組内容と結果

取組2：プラットフォームの運営・とりまとめ

結果

【取組2 まとめ】

資料「**熱中症予防のためのプラットフォーム運営のポイント**」から一部抜粋

- ・参加する主体が、熱中症予防・対策に主体的に取り組むことが鍵であり、**それぞれが主体性を持って関われる条件を整える環境整備が必要**と考えられた。
- ・プラットフォームには、以下の機能を持つことが必要と考えられる。
 - ①リスク要因を分析すること（**分析機能**）
 - ②当該リスクに関与する多様な現場の関係者を結びつけること（**ネットワーク機能**）
 - ③建設的な議論を促進すること（**ファシリテーション機能**）
- ・プラットフォームの活用にあたっては、以下のような留意が必要だと考えられる。
 - ①地域の団体・人が主体的に参加している。
 - ②参加団体にも取り組むメリットや、共通の活動ゴールに向かう動機がある。
 - ③取組に関わる追加の費用・負担が少ない。既存の活動の延長線上で実施できる。
 - ④地域の社会資源であるネットワークを損なわない。逆に強化するかたちで実施できる。

【吹田市】 6. モデル事業まとめ

事業を通して出た成果・新たな課題・今後の対応方針等

（社会的に孤立する「ひとり暮らし」の高齢者への継続的なアプローチ）

- ・社会的に孤立した状態にあるひとり暮らしの高齢者に対しては、声かけ活動等による情報伝達・啓発が届きにくい。
- ・すでに存在する関係性を維持しつつ、新たに生まれてくるひとり暮らしの高齢者の信頼関係を創り出していく継続的なアプローチが必要とされているが、こうした活動を担う地域のボランティアにおいても高齢化が進むなど、持続的に活動する上での課題が見られる。

（地域の主体的・自発的な取組との連携のための情報把握）

- ・地域・自治体で高齢者を支援する取組をおこなっている団体と連携し、主体的・自発的な活動と連動すると、情報提供・啓発の活動が効果的に実施できる可能性があり、地域の市民活動を支援する拠点等の存在が欠かせないため、そういった拠点が整備されていない地域では、そこが課題になると予想される。

【吹田市】 6. モデル事業まとめ

事業を通して出た成果・新たな課題・今後の対応方針等

(地域の高齢福祉関係主体との連携を活かした啓発・取組支援)

高齢者への啓発のため、高齢者への支援に関する関係者を考慮すると、モデル事業を通じて実施してきた環境部局からの啓発だけではなく、以下の方法等が考えられる。

- ①ヘルパーやケアマネジャーを雇用している事業所などに対して熱中症を啓発
- ②ヘルパーやケアマネジャーに対して熱中症を啓発
- ③ヘルパーやケアマネジャーから高齢者に対して熱中症を啓発

高齢者へ効果的に啓発するにあたっては、ヘルパーやケアマネジャーといった方々にも業務・作業に支障がないようにしながら取り組んでいただくことが必要であり、その方法の検討が重要。

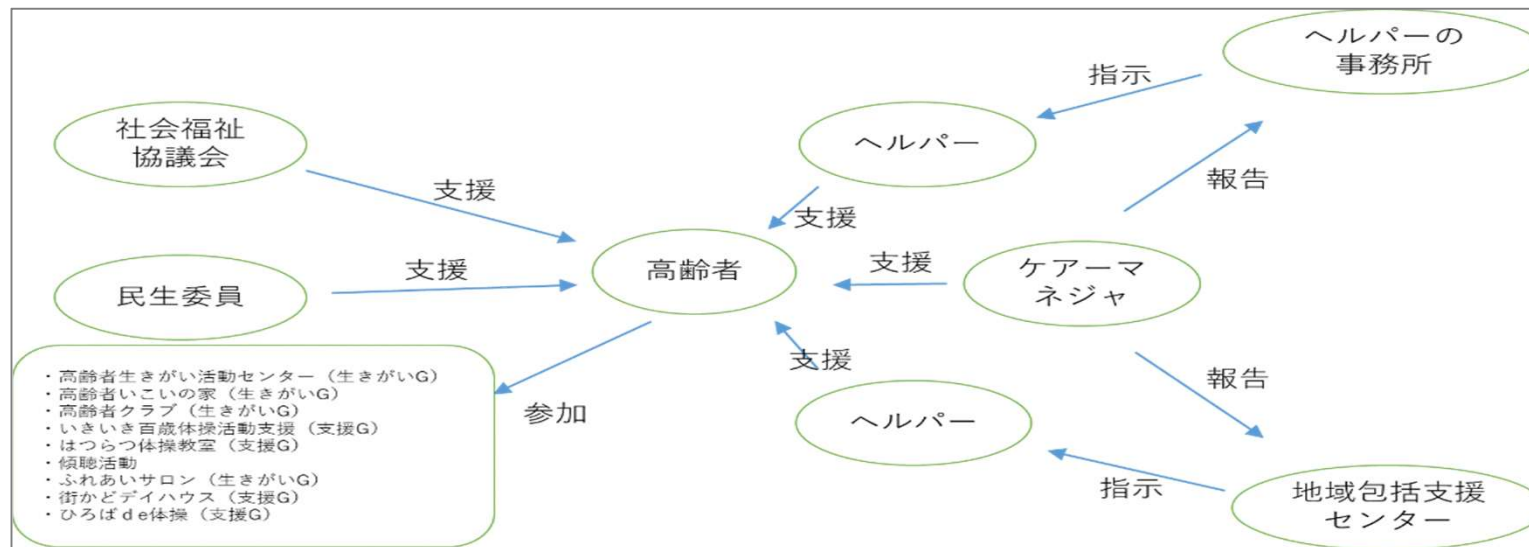


図 高齢者を取り巻く多様な支援 (模式図)

【吹田市】 6. モデル事業まとめ

事業を通して出た成果・新たな課題・今後の対応方針等

（高齢福祉・教育等の各分野における熱中症予防を担当部門から促す必要性）

- ・高齢者、教育現場、クラブ活動など、啓発の対象者ごとに担当する市のセクターが異なるため、自治体の環境部局からの啓発・情報提供と同時に、**各セクターに関係する国（省庁）からの通達等が求められる。**

（中間支援組織との連携）

- ・地域の活動団体との連携を行う上では、地域で主体的・自発的に活動している組織と熱中症予防対策を進めたい主体の双方が利益を得る関係（Win-Winの関係）づくりが重要。
- ・地域で主体性・自発性を持つ団体の活動状況や背景について、よく把握している中間支援組織が仲介することで、熱中症予防・暑さ対策などの取組と団体の活動を連動させるアイデアが生まれる可能性がある。

【吹田市】 7. 熱中症対策における継続的改善のため

令和3年2月に策定した「**吹田市第2次地球温暖化対策新実行計画**」を地域気候変動適応計画に位置づけ、暑熱環境対策として熱中症対策の取組を推進している。

今後、「**吹田市第2次地球温暖化対策新実行計画**」の改定時には、現在実施している様々な取組を盛り込むことを予定している。

令和5年度に改定予定の「**吹田市総合計画**」において、熱中症による健康被害を回避するための啓発活動や情報発信などの取組について掲載することを予定。

【吹田市】 <参考>モデル事業 年間スケジュール

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
1	熱中症リスクの高い高齢者とその関係主体に対する取組・効果検証		<p>1) 温度計を活用した“気づき”による行動促進</p> <p>■ アンケートの設計、協力高齢者の募集</p> <p>■ アンケートの印刷、協力高齢者の選定</p> <p>■ アンケートの送付</p> <p>■ アンケートの実施</p>			<p>■ アンケート回収・結果集計</p>		<p>■ アンケートまとめ</p> <p>■ 関係主体の結果共有</p>		<p>■ 調査協力者への結果共有</p>	
			<p>2) 高齢者支援団体の声かけによる行動促進</p> <p>■ 協力依頼</p> <p>■ 高齢者支援団体との調整・協議</p>	<p>■ 高齢者支援団体への情報共有</p>	<p>■ 高齢者への声かけ</p>	<p>■ 高齢者支援団体へのインタビュー・アンケート</p>	<p>■ インタビューまとめ・ポイントとりまとめ</p>				
2	熱中症リスクの評価		<p>■ 暑熱調査計画、関係者間の調整</p>					<p>■ 暑熱調査実施、高齢者・重症者リスク分析</p> <p>■ 熱中症搬送者情報収集</p>		<p>■ データ分析・まとめ</p>	
3	プラットフォームの運営		<p>■ プラットフォーム会議（高齢者）</p> <p>■ プラットフォーム会議（教育機関）</p> <p>● 運動施設プラットフォーム会議関係者との情報共有（運動施設）</p>					<p>■ プラットフォーム会議（高齢者）</p> <p>■ 運営ポイントのとりまとめ</p>			
	事務局	<p>■ 実施者打合せ及び年間プランの作成等</p> <p>■ 協力依頼、有識者助言、企画調整</p>						<p>■ 中間報告書</p>	<p>■ 有識者助言</p>	<p>■ 最終報告書</p> <p>■ 報告加筆修正</p>	